令和３年１１月１１日
世田谷保健所健康企画課

今夏の熱中症の発生状況等について

１　主旨

区内では梅雨明け後の気温上昇、また、近年は梅雨入り前の気温上昇によっても、高齢者を中心に熱中症による救急搬送事例が発生している。

このような状況を踏まえ、区は平成２３年度より、熱中症予防「お休み処」の設置をはじめとした熱中症予防の啓発を行っているところである。

このたび、東京消防庁等より熱中症救急搬送者数等の速報値（９月末まで）が示されたことを受け、今夏の区内の熱中症発生状況及び区の取組みについて報告する。

２　取組期間

令和３年６月１５日（火）から９月３０日（木）まで

３　主な取組み

（１）熱中症予防「お休み処」の設置

区内２５２か所（出張所・まちづくりセンター等公共施設、まちのステーション、ファーマーズマーケット、高齢者・障害者施設、調剤薬局、接骨院整骨院、公衆浴場など）に飲料水（ペットボトル等）を用意し、炎天下の外出時の休憩および水分補給の機会を提供した（※昨年度２３７か所）。

（２）「熱中症予防シート」配付による予防啓発

民生委員やあんしんすこやかセンター、区職員等の高齢者宅への訪問活動を行う際、液晶温度計のついた「熱中症予防シート」を配付し、夏の気温上昇に対しての注意喚起を行った。

（３）「熱中症予防啓発チラシ」による注意喚起

町会・自治会回覧や家庭ゴミの高齢者等訪問収集の際、「熱中症予防啓発チラシ」を配布し、熱中症への注意喚起を行うとともに、熱中症が疑われた場合の対処方法を周知した。

（４）官民連携による予防啓発（令和３年度の新たな取り組み）

官民連携の枠組みを活用し、大塚製薬株式会社（以下「大塚製薬」という。）との連携で以下の予防啓発に取り組んだ。

①大塚製薬及びＮＰＯ法人気象キャスターネットワークとの協力により作成した熱中症予防啓発動画をせたがや動画（ＹｏｕＴｕｂｅ区公式チャンネル）で配信した。

②大塚製薬の協力により作成したポスター「熱中症に気を付けよう！」を区内の新型コロナワクチン集団接種会場、区立小中学校、幼稚園、保育園、児童館等に掲示した。また、大塚製薬の販売ネットワークも活用し、区内の小売店にも掲示した。

③大塚製薬から提供いただいたチラシ「高齢者のための熱中症対策」をあんしんすこやかセンター、新型コロナワクチン集団接種会場で配布した。

④大塚製薬より寄贈いただいたイオン飲料を新型コロナワクチン集団接種会場で配布した。

4　気象状況（令和３年６月１日～９月３０日）

（１）最高気温が３５℃以上の猛暑日の日数　　２日（昨年度：１２日）

（２）最低気温が２５℃を下回らない熱帯夜の日数　　１９日（昨年度：２７日）

（３）梅雨明け　７月１６日ごろ（昨年度：８月１日ごろ）

（４）熱中症警戒アラート発表日数（東京都）　　７日（昨年度：１７日）

5　熱中症発生状況（令和３年６月１日～９月３０日）

（１）救急搬送者数（東京消防庁世田谷消防署：１０月２３日現在）

区内：１９３名（昨年：３１４名）

（２）死亡者数（東京都監察医務院：１０月２３日現在）

①区内：３名（昨年：１６名）

８月　３０歳代１名、７０歳代２名

②２３区内：３９名（昨年：２００名）

◆２３区内の死亡例の特徴

例年梅雨明け後に、急激に気温が上昇することで死者が多数発生している。昨年は８月１日ごろに梅雨が明けたため、７月までの死者数は０名であった。今年は７月１６日ごろに梅雨が明け、気温が急激に上昇したことで、７月の死者が１３名となった。

6　今年度の発生状況を踏まえた今後の対応について

（１）来年度も、民間のノウハウを活かした官民連携による熱中症予防啓発動画の制作・配信、熱中症予防啓発ポスターの作成・掲示等を通じて熱中症予防啓発チラシなどの啓発物品について、熱中症の危険をよりわかりやすく伝えるレイアウトに更新していく。また、エアコンの積極的な活用等についても改めて啓発する。

（２）区の職員等を対象としたオンデマンド型の熱中症に関する講座を実施し、熱中症予防に対する正しい知識を身につけ、職員が区民に対して熱中症に関する的確な注意喚起を行えるように取り組む。

（３）引き続き新型コロナウイルス感染症予防策に配慮し、夏季のマスク着用に関する留意点も加えた熱中症予防の対策に取り組む。